

2021 年度 女子サッカー部 メンバーインタビュー

部員数

21~40人

主な成績

所属学群

体育専門学群, 社会・国際学群, 人間学群, 生命環境学群, 理工学群, 医学群

2020インカレ出場ベスト16

2020関東大学女子サッカーリーグ1部 準優勝

練習場所

筑波大学第一サッカー場、筑波大学セキショウフィールド

2020皇后杯本戦出場

蓮輪 真琴 (体育4年/主将)

野嶋 彩未 (体育2年)

— 私が目指す「サッカー」

蓮輪

今シーズンは「誇高」をスローガンに掲げています。

それぞれレベルが違う中で、色んなところから集まってきて、やってきた環境も違う中で、それぞれの役割を全うすることだったり、目標に向かって自分なりに全力で頑張れることで、まずは自分自信を誇れるようになろう、という思いがあります。また、チームとしても一人一人が高みを目指して努力し続けられることで、よりチームも良くなっていくと思っているので、一人一人の努力や挑戦を互いに認めて応援し合えるチームを今年を目指しています。

昨シーズンまでは、守備に重点を置いてきましたが、今シーズンは攻撃に力を入れています。今まで積み上げてきた守備に、高いレベルの攻撃、よりボールを支配して、主導権を握るようなサッカーを目指しています。



野嶋

筑波大の女子サッカーは、今までの経験値の違いや、所属してる環境が異なる人がいる中で、筑波大ならではの良さでもある「考えてプレーする」というところに重きを置いてるなって思っています。最近は相手チームの分析を行って、対戦相手に対する対策を練って試合に挑んだり、試合後のフィードバックを全員でやって、次の試合に活かしています。

みんなそれぞれ違う環境にいる中で、サッカーに対する熱い思いをみんなが持ってて、そういう中でプレイできてるのがすごい楽しくて、今後自分のためにもなると思います。

— 筑波大学をどう思っていた？

蓮輪

自分が入学した時は、関東リーグ二部でインカレにも出場できてなくて、出場権利もない状況でスタートしました。その状況の中で、自分は推薦入試で入学しました。

これまで高いレベルを目指してる人が集まった中でしかサッカーしたことがありませんでした。筑波大学では、高いところを目指すのはもちろん、違う環境から集まった選手がいる、大学生からサッカーを始めている人もいる環境の中で、より高い目標を目指すというところに魅力を感じていました。自分もこのチームの一員としてチームを勝たせられる選手を目指して行きたいと思っていました。

さらに、学校自体にトップアスリートが多く、そこからいろんな刺激を受けることができます。違う競技の知識、睡眠や栄養など、オフザピッチから様々な刺激を受けることができると感じて、筑波大学を志望しました。

野嶋

私が筑波大学を決めた時は、筑波大学の女子サッカーが関東リーグの一部に昇格、またインカレ出場が決まり、チームのレベルがどんどん上がって来てるっていうことを実感していました。また、高校時代の先輩が筑波大学の女子サッカー一部にいて、サッカーだけでなく、人間としての成長という部分に重きを置いて、それぞれ各部署の仕事であったりと、チームの選手運営にも魅力を感じていました。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなところ

蓮輪

このチームで学んだことは、自分だけが良ければいいという考えではいけないということ。自分だけがより高いところを目指しては、絶対に結果はついてこないということを学びました。チームのみんなで協力するからこそ、力を発揮できます。個の能力で見ると、自分たちにとっては、格上の相手と試合をする機会が多く、その中でも試合には勝っていかなくてはなりません。その時、組織力や気持ちの部分は、オンザピッチやオフザピッチの部分が重要になってくると思います。そういう縦と横の関係、組織力の凄さについて学んでいます。

運営面では、1試合でどれほどの人が力を費やして、どれだけの人が協力しているのか。自分たちで実際に運営する中で身に染みて感じています。

このチームの好きなところは、スローガンにも掲げている通り一人一人が自分の目標に向かって

頑張っていく中でお互いを応援し合える、っていうのが自分はこのチームのとても良いところだ
なって思います。自分とは違う考えを持っていても、それを受け入れてそれを応援する。ここに
チームの魅力を感じます。

野嶋

今のチームで学んだことは個人の状況がどうであれ、やっぱりチームとして動く上で、個人より
もチームを優先させなきゃいけない時もある。その中で個人の良さを出していくことも重要だっ
ていうことを学びました。そういう中で個人の成長にもつながって、自分ができないことができ
るようになったり、得意なことがもっと得意になったり、チーム運営をしていく上で、個人とし
て成長できることがすごく良いと思います。

チームの好きなのは全員がサッカーに対してとても向上意欲があって、分からないプレーが
ある時は、すぐに聞いたり、分析班にたくさんの方が所属してたり、また、女子サッカーを広め
るために企画係で普及活動をしてくれてたり、色んな面から女子サッカーを広めて、そして強く
するために人が動いているというところがすごい好きです。



— これからの目標（直近の目標、人生の目標）

蓮輪

チームは現在、大学リーグと、クラブチームも所属してる関東女子サッカーリーグに所属してい
ます。現在は、両方のリーグが始まっていて、連戦で苦しい中ではあるんですけど、大学リーグ
では「5位以上、インカレシード権獲得」という目標と、関東女子サッカーリーグでは「1部残
留」を目標に掲げています。

これからもっと強いチームと戦っていかなくてははいけません、そこでチームの強みでもある
「組織力」や、個々のレベルアップ、戦術面について、日々の練習から取り組んでいきたいなと
思っています。

そしてインカレに出た時は、自分たちの最大の目標である『インカレ優勝』を目指しています。

インカレでは、トーナメント戦ということで負けが許されない中で、全員で最後の集大成を体現していきたいなと思っています。

野嶋

チームの目標を達成する過程で、技術的な向上もちろんですが、人間的成長であったりチーム力であったりそういうところを伸ばしていきたいなと思っています。

その成長が将来にも関わってくるでしょうし、だからこそ目標に向けての過程に重点を置いていきたいと思います。

卒業後は教員になりたいと思っています、教員の立場から女子サッカーを広めてもっと女子サッカーの普及率を高めていきたいです。

中学、高校で挫折して、やれる環境がなく辞めてしまう人が多い中で、そういう人ができるような環境を作って、もっと女子サッカーの人数を増やして、女子サッカー界のレベルアップを図ってきたいと思っています。

— 未来のチームメイトに一言

蓮輪

サッカーだけではなく、人間的成長ができるのがやっぱり、筑波大の本当の魅力だと思います。また学生主体の運営も一つの魅力です。社会に出た時に通用する力などが養われ、色々なレベルの人がいるから、その中でコミュニケーション能力も養われます。

どんな選手でも、みんなが頑張れる環境を自分達は作って待っています！

もし迷っているのであれば、体験に来てくれると、きっと女子サッカーの魅力っていうのを知ってもらえると思います。自分が後悔しない選択をしてほしいと思います。

野嶋

チームとしての目標が高くて入部に戸惑う人もいるかもしれませんが、その目標達成のためだけに自分たちは動いてるのではなく、それまでの過程を重要視しています。サッカーのレベルももちろんですが、人間的成長ができるという面で、女子サッカー部に入ることは、すごくオススメできます！

